

## 安永の曳山騒動

立町の車輪を高岡へ修理に出していたとき、高岡の人々はその立町の車輪を見て「高岡の御車山に似た大車輪だ」と咎めた。その後の裁判で車輪に板を張って巡行すれば良いということになり、そのようにして曳山を巡行させた。だが曳山祭りの当日、車輪から板が外れてしまい、そのまま引いていた。それを見た高岡の人々が襲い掛かってきて、その中の御車山側の人（つばたやよしべい）が逮捕され獄死。そして曳山の車輪は没収された。その際、たまたま新湊にいた若年寄が命がけで手紙を送った。その内容は「もし曳山を引かなくて魚が取れなかったらどうするんですか。」という内容だった。その思いが通じたのか、車輪を取り戻せることとなった。

